

プロジェクトマネージャー：夏野 剛 PM

(慶應義塾大学 政策・メディア研究科 特別招聘教授)

1. プロジェクト全体の概要

様々な領域でパラダイムシフトが要求されている日本の状況において、これまでの既成概念を壊すようなインパクトを与えられる可能性を秘めた独創的なプロジェクトを発掘したいと考えている。さらに、日本の最大の課題である「どうやって優秀な人間をさらに伸ばしていくか」に対して、世界で通用するソフトウェア、世界で例のないビジネスモデル、驚くような利便性をもたらしてくれる技術を求めている。プロジェクト採択においては、上期同様、「現実のアプリケーションあるいはソリューションを組み上げたときの価値」に注目し、その点において有望なプロジェクトを選択できた。プロジェクト進捗レビューのポイントとしては成果物主体で、特に、中間報告会および最終報告会において、具体的に「動くもの／見せるもの」を示してもらおうよう指導した。また、成果物の応用に興味を持つであろう企業への紹介に関しても、「動くもの」ができた時点でクリエイターの意向／意思を尊重し、エンカレッジ(後押し、促進)の形を取った。期間中、クリエイター／コクリエイターが一同に会する Face-to-face のミーティングと Skype 電話会議を利用し、互いの成果物に対して前向きなアドバイスを行う雰囲気できた。最終的に、3プロジェクトそれぞれに、計画どおりの成果を達成できた。どのプロジェクトも、既存の該当ビジネス領域に対して、インパクトを与える期待が大いに持てるので、いかに早く実用化できるか、今後も企業との連携などの面で支援を継続したい。

2. プロジェクト採択時の評価(全体)

これまでの既成概念を壊すようなインパクトを与えられる可能性を秘めた独創的なプロジェクトを発掘したいと考えた。さらに、日本の最大の課題である「どうやって優秀な人間をさらに伸ばしていくか」に対して、世界で通用するソフトウェア、世界で例のないビジネスモデル、驚くような利便性をもたらしてくれる技術を求めている。プロジェクト採択においては、上期同様、「現実のアプリケーションあるいはソリューションを組み上げたときの価値」に注目し、その点において有望な、以下の3プロジェクトを採択できた。

1. 小瀬木 浩昭氏「ユーザフレンドリかつ不正攻撃に強い、コンピュータと人間の識別能力の違いを活用した判別基盤の開発」

2. 木ノ村 護氏「セル・オートマトンと有限要素解析による環境適応型—形態創生」
3. 小林 悟史氏、前田 高宏氏「オープンソースソフトウェア指向型作曲支援プラットフォームの開発」

3. プロジェクト終了時の評価

最終的に、3プロジェクトそれぞれに、計画どおりあるいは計画以上の成果を達成できた。どのプロジェクトも、既存の該当ビジネス領域に対して、インパクトを与える期待が大いに持てるので、いかに早く実用化できるか、今後も企業との連携などの面で支援を継続したい。